

## 国際家族看護学会・Let's Talk About Children研究会 参加報告

長田 洋和

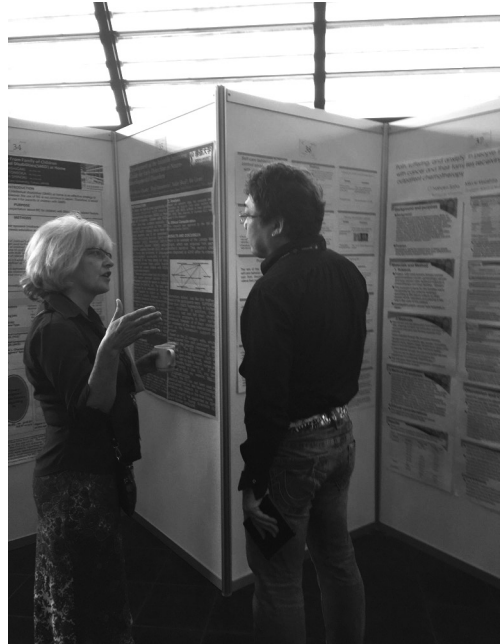
8月18日から21日まで、デンマークのオーデンセで開催された国際家族看護学会にて、本プロジェクトの中で行った研究の一部をポスターにて発表した。

この研究の目的は、神経発達症の早期発見のための乳幼児期インタビューガイドの開発である。神経発達症の早期介入が良好な予後に寄与することは明らかになっているが、早期発見の方法が、わが国では未確立である。特に、コミュニティでのスクリーニングにおいては、神奈川県や佐賀県、高知県などでは独自に進められているものの、大多数の都道府県では手探りの状態である。本研究では、コミュニティでの神経発達症の早期スクリーニングの可能性として、わが国が実

施している、世界でも類を見ないコミュニティでの健康診断である1歳6カ月健診の場で、特に保健師による簡便なスクリーニング法の開発を試みた。母親による自記式尺度も感度が高いものが報告されているが、専門家による面接は、特に知的能力障害を伴わない神経発達症のスクリーニングには有効であると思われる。

移動日を挟み、8月24日から26日までは、昨年度に引き続き日本版の開発ならびに実践を行っているLet's Talk About Children（以下、LT）の開発者である、Tytti Solantaus 博士から専門的知識提供を得るためにフィンランドのヘルシンキに出張を行い、研究会に参加した。

LTは、精神疾患を有する親の子育て支援を目的とした短期介入法である。精神疾患を有している親で子どもを育てているものとその子ども（あるいは家族）に対し2回の介入セッションを行い、精神疾患を有する親特有の子育てにおける苦悩を軽減することに加えて、子ども（本セッションでは、クリニック等にはかかっている定型発達児で、少なくとも4歳を超えているものを対象



ポスター発表の様子

とする)を、不良な予後である不適応行動(精神疾患の発症を含む)から予防することを目的としている。

昨年度、Solantaus 博士から日本版の開発および実践の許可を得ることができたが、今年度は引き続き、実践に向けての疑問点、わが国への導入へ向けてのディスカッションおよびLT後の家族介入法であるVertti Support Group (Vertti) のワークショップを行って

もらった。Vertti については、わが国の心理臨床の枠組みではすぐに導入することは難しいかもしれないが、今後の可能性の知見を得た。

今後は、LTを自国で応用実践しているオーストラリアの研究者および実践家、ならびにコミュニティへの拡大の研究に着手したアメリカの研究者、わが国と同様に自国のメンタルヘルスサービスへの応用を進めているイタリア、ギリシャ、デンマークといった諸外国の研究者および実践家とディスカッションを進めるLT World Wide Meeting へ、わが国からの代表として関わることになり、すでに10月から開始されたインターネットでのミーティングに参加している。2016年8月にスイスのバーゼルで開催されるTransgenerational Mental Healthの年次大会にて、上述の国々の研究者および実践家とともに、わが国での実践と応用についての発表を行う予定である。



ポスター発表の様子

## 発表題目

Osada, H., Yamamoto, S., Shoji, Y., & Ueno, R. (2015). Development of the Infantile Interview Guide for Early Detection of Neurodevelopmental Disorders. The 12th International Family Nursing Conference, Odense, Denmark.